

# 実践から学ぶ 英語翻訳法 1

— でんしゃ理論で読み解く —

著者： 斉木 鉄人(翻訳者)

訳例の資料： Mary Alice Haddad 著「Building Democracy in Japan」

出版： (有) 斉木学園 斉木翻訳事務所



# 目 次

## でんしゃ理論 1

重要語句 : and they are ~

文 法 : 等位接続詞とカンマ記号(被接続語の相互関係)

## でんしゃ理論 2

重要語句 : As ~ indicates,

文 法 : 「文頭語」as について(接続詞か前置詞か、接続詞の意味の決定)

## でんしゃ理論 3

重要語句 : What distinguishes ~ from

文 法 : 物主構文について(物主語と述語の関係、日本語の目的語とは?)

## でんしゃ理論 4

重要語句 : there can be no ~ to(prepos.)

文 法 : There is 構文は 4 大構文の一つ(広い意味内容に伴う構造の特徴、倒置構文とは?)

## でんしゃ理論 5

重要語句 : It argues that ~

文 法 : 主節と従属節について(本動詞が構造の構築、従動詞が意味内容の伝達)

## でんしゃ理論 6

重要語句 : successfully

文 法 : 副詞による動詞への修飾について(修飾による意味の変容 ~ 副詞の動詞化・動詞の名詞化)

## でんしゃ理論 7

重要語句 : , as is the case for ~,

文 法 : 関係詞の独立用法について(関係詞と接続詞の類似点と相違点、挿入語句)

## でんしゃ理論 8

重要語句 : ~ is told as ~

文 法 : 前置詞の as 語句は動詞 tell の補語か?(as 語句は文要素なのか? ~ 構造と機能の問題)

## でんしゃ理論 9

重要語句 : contribute to ~

文 法 : 物主構文について(生物と物主語における動詞の性質上の相違点)

## でんしゃ理論 10

重要語句 : To examine how ~, one needs to ~

文 法 : 不定詞の「文頭語」について(不定詞から構造の推理 ~ 文要素か否か、副詞的用法ならその具体的内容は?)

## でんしゃ理論 11

重要語句 : ~ include: How do ~?

文 法 : コロン記号とセミコロン記号(使用の「形式と目的」の両面から分析)

## でんしゃ理論 12

重要語句 : In addition to examining ~, S + V

文頭の前置詞について(nexus の法則と語順の変化)

## でんしゃ理論 13

重要語句 : under which ~

文 法 : 関係詞の用法(関係詞の直前にある前置詞、名詞の具体化)

#### でんしゃ理論 14

重要語句 : ~a fusion of A with B

文法 : 名詞 fusion とその前置詞について(名詞 fusion と前置詞 of, with との関係)

#### でんしゃ理論 15

重要語句 : reconcile ~ into

文法 : 動詞と前置詞の関係について(動詞による目的語や前置詞句への働き)

#### でんしゃ理論 16

重要語句 : those found in ~

文法 : 代名詞 those の用法について(代名詞の基本法則と特殊な用法)

#### でんしゃ理論 17

重要語句 : work together to try ~

文法 : 動詞と不定詞の関係について(完全自動詞と不定詞の副詞的用法)

#### でんしゃ理論 18

重要語句 : (be) held accountable to A for B

文法 : 二重前置詞の用法について(完全自動詞と二重前置詞)

#### でんしゃ理論 19

重要語句 : there are other ways that ~

文法 : there is 構文の用法について(他の倒置構文との比較、there is 構文の構造的特徴)

#### でんしゃ理論 20

重要語句 : from A - from B, from C, and from D

文法 : ダッシュ記号について(ダッシュ記号の扱い方と記号論の本質)

#### でんしゃ理論 21

重要語句 : as it functions ~

文法 : 接続詞 as の用法について(as 節は目的格補語 — 形容詞節になるのか?)

#### でんしゃ理論 22

重要語句 : It is time for ~ to ~

文法 : 仮主語か無(非)人称代名詞かについて(時の it と「意味上の主語」との結合)

#### でんしゃ理論 23

重要語句 : how much ~ how ~

文法 : 間接疑問詞と間接感嘆詞の用法について(間接とは? 「間接疑問詞」how の意味の特定)

#### でんしゃ理論 24

重要語句 : expect + O + to be + C

文法 : 不定詞の用法について(不定詞における本動詞と目的語、その他との関係)

#### でんしゃ理論 25

重要語句 : note that ~; S + V

命令文の用法について(接続詞か前置詞か、接続詞の意味の決定)

#### でんしゃ理論 26

重要語句 : five nouns: A, three Bs (b phrase), and C (c phrase)

文法 : コロン記号と丸括弧記号について(コロン記号と丸括弧記号の構造的・機能的相違点)

#### でんしゃ理論 27

重要語句 : '~ be matched case studies for ~'

文法 : 他動詞の変形と前置詞について(過去分詞の形容詞化と意味内容)

#### でんしゃ理論 28

重要語句 : This is largely because ~

文 法 :理由の訳出法について(補語による主語・be 動詞との関係)

#### でんしゃ理論 29

重要語句 : rather than ~ing

文 法 :接続詞 → 前置詞について(接続詞、関係詞、前置詞、不定詞、分詞間の○○化問題)

#### でんしゃ理論 30

重要語句 : be likely to ~

文 法 :ある種の助動詞の用法について(文要素を中心とした構造論と助動詞、筆者の心的態度)

#### でんしゃ理論 31

重要語句 : political system ~ aimed at

文 法 :文中の過去分詞の用法について(文中での過去分詞の接続関係は nexus の問題である)

#### でんしゃ理論 32

重要語句 : it is reasonable for ~

文 法 :代名詞 it の用法について(代名詞 it が後方に to 不定詞を取るか that 節を取るか)

#### でんしゃ理論 33

重要語句 : enables ~, explicating ~ and creating ~

文 法 :分詞構文の付帯状況の用法について(分詞表現の分析は「本動詞」中心に構造的・機能的に)

#### でんしゃ理論 34

重要語句 : , including ~

文 法 :現在分詞か、それとも前置詞かについて(文要素と付加的構造物の関係)

#### でんしゃ理論 35

重要語句 : put ~ into practice in ~

文 法 :前置詞複数個の接続関係について(確率の法則と前置詞の一次的・二次的決定基準)

#### でんしゃ理論 36

重要語句 : seek to modify ~

文 法 :ある種の助動詞の用法について(助動詞を機能的ではなく構造論的に捉える)

#### でんしゃ理論 37

重要語句 : ~political practices consistent with ~

文 法 :形容詞の修飾関係について(形容詞の前置用法と後置用法、抽象・具体の法則)

#### でんしゃ理論 38

重要語句 : Both A and B through which they come about have ~

文 法 :主語と述語について(英文構造の大法則である nexus の法則と文頭語法)

#### でんしゃ理論 39

重要語句 : empower ~ to

文 法 :他動詞の用法について(5 文型か 3 文型か、後者場合の動詞と不定詞の関係)

#### でんしゃ理論 40

重要語句 : For ~ to be ~, S + V

文 法 :文頭に for ~ to について(nexus の法則と意味上の主語、主文の文要素との関係)

#### でんしゃ理論 41

重要語句 : ~battles over who is included~

文 法 :間接疑問詞の用法について(over が前置詞か副詞か、who が関係詞か間接疑問詞か)

#### でんしゃ理論 42

重要語句 : as recorded in ~

文 法 :関係詞か？接続詞か？について(文中ないしは文末にある譲歩の as の扱い方)

#### でんしゃ理論 43

重要語句 : a goal of ~ was to ..

文法 : 不定詞の名詞的用法について (be 動詞は、自然・社会現象を表現する中心的存在)

#### でんしゃ理論 44

重要語句 : use the cases of ~ to ~

文法 : 不定詞の副詞的用法について (動詞の要求による・よらない不定詞、動詞と不定詞の相関関係)

#### でんしゃ理論 45

重要語句 : ~ between A such as B, C, and D with ~

文法 : 前置詞の用法について (文要素と前置詞の働き、前置詞の一次的・二次的決定)

#### でんしゃ理論 46

重要語句 : ~ choices of actors seeking to ~

文法 : 意味上の主語について (意味上の主・述と nexus の法則、それらの形態の唐突性)

#### でんしゃ理論 47

重要語句 : ~ the desire of rulers to stay in power ~

文法 : 意味上の主語について (三者関係における意味上の主語)

#### でんしゃ理論 48

重要語句 : ~ how relatively slight ~ can result in ~

文法 : 間接疑問詞 how の用法について (間接とは何か? how の 疑問詞と感嘆詞と関係詞の区別)

#### でんしゃ理論 49

重要語句 : ~, which argued that ~

文法 : 関係詞の継続的用法について (関係詞に内包する 2 つの要素、その 1 つは構造的性質)

#### でんしゃ理論 50

重要語句 : a shift from ~ to ~

文法 : 文頭語句の用法について (文頭語句と述語の関係 ~ S・V 関係)

## はじめに

---

私は、この「実践から学ぶ英語翻訳法(でんしゃ理論で読み解く)」を執筆する翻訳者の斉木鉄人です。

私がこの理論書を執筆するきっかけになったのは、長年の翻訳業務からくるものではなくて、むしろこれから社会に飛び立つ高校生や大学生・大学院生、そして現に社会貢献する立場にある社会人、更には研究者を相手に50年近くにわたって語学(英語中心)や(小)論文(司法試験を含めあらゆる国家試験)の指導から生まれた絶対的必要性によるものです。

そういう意味で、このシリーズは、私がこれまで学んできたすべての知識や経験に基づいた理論的構築物であると言ってもいいでしょう。

さて、このシリーズの教材に、Mary Alice Haddad 著、“Building Democracy in Japan”「日本の民主主義」を使用しました。というのは、著者の Haddad が日本の民主主義について実に興味深い、そして非常に重要な捉え方をしているからです。その一つとして、彼女は日本の民主主義の基盤となっている中国の「儒教」を取り上げていることが注目されます。

1946年に、アメリカの文化人類学者であるルース・ベネディクトが「The Chrysanthemum and the Sword(菊と刀)」の中で「日本人の精神文化」を語ったように、海外の研究者が日本文化について如何に語っているかを学ぶことは、この21世紀に生きる私たち日本人にとって必要不可欠なことであると思います。というのは、彼らが私たち日本人のために「文化の鏡」になってくれているからです。

## 課題文

---

How is democracy made real? How does an undemocratic country create democratic institutions and transform its polity such that democratic values and practices become integral parts of its political culture?

These are some of the most pressing questions of our times, and they are the central inquiry of the pages that lie ahead.

This book is about the democratization of Japan — the democratization of its polity and politics, not just its government.

## 和訳

---

民主主義は如何にして実現されるのであろうか？ 非民主的な国家は如何にして民主的な制度を構築し、そして民主的な価値観や習慣が政治文化の不可欠な部分になるためには如何にして政治組織を転換するのであろうか？

これらの問題は我々が生きる現代において最も差し迫った問題であり、これから本書の中で論じる中心的な課題でもある。

本書は単に日本政府の民主化に関するものではなく、日本の政治組織や政治など日本の民主化に関するものである。

## 解説(構造論・機能論)

---

今回は “ These are some of the most pressing questions of our times, and they are the central inquiry of the pages that lie ahead.” を取り上げてみましょう。

「等位接続詞」and の用法について考えます。

### 分析法(理論)

英文の中には、これから取り上げることになるのですが非常に多くの法則や取り決めがあります。しかし、私はその中心にあるのが、「nexus(主述関係)」の法則に基づいた「でんしゃ理論の構造論・機能論」だと考えているのです。

私のこの「でんしゃ理論」は学校教育の中で学ぶ英文法と比べて、確かに共通点も多く含まれているのですが、そもそもの理論の根本が異なっているのです。それを大袈裟に言うと、学校教育の英文法は「日本語であって英語ではない」という表現になるでしょう。

英語は日本語とは根本的に異なった異文化(欧米文化)の究極的な「思考回路を文字化した表現法」なのです。従って、その異文化の表現法をいくら日本語の思考回路で学習しても根本的に解決することはできないのです。

その意味で、この「でんしゃ理論」は異文化という巨人に挑戦しているわけで、果たしてその巨人の真実を垣間見ることができるか？これが私にとっても、また読者のみなさんにとっても最大の問題なのです。

さて、この「等位接続詞」and は、「でんしゃ理論」において動詞の be や have と並ぶ英文を構築する2大構造物の一つです。なぜなら、「等位接続詞」and は節(s1+v1)と節(s2+v2)を繋ぐ、言い換えると2つの電車の車両を接続させる(2両編成の電車)働きを持った基本的な接続詞だからです。

[ 構造式:S1+V1, and S2+V2.]

上記の構造式で、特に注目しなければならないのが V1 と V2 の「動詞」なのです。それぞれの動詞は、それぞれの節(s + v)の「文要素」として構造的にも機能的にも最重要な働きをしています。

そのような2つの節(s + v)を繋いでいるのがこの「等位接続詞」and なのです。従って、この「等位接続詞」and のお陰で、英文の新たな展開が生み出され、よって理論的に一層精緻な表現が可能になったと言えるのです(ピラミッド思考)。

言い換えると、この「接続詞」and が動詞 be や have には到達できなかった、深い意味を表すことのできる表現の領域へ導いた役割は図り知れないのです。

この課題文は、and の直前に「カンマ記号」をつけ、そして and が前節と後節を「有機的に接続」させています。従って、読者は前節と後節の内容を個別に訳出し、そして両者を繋いでハイ終わりというのではなく、2つの節(s + v)相互の「相関関係」をしっかりと把握して訳出する必要があります。

英文の中で度々目にすることですが、「接続詞」and の背後に、「副詞」then、yet、so、also などが配置されています。それは、前後の節(s + v)の「相関関係」を明らかにしているのです。従って、単純に「そして、〜と」などと訳して十分な問題ではないことが理解できると思います。

### 訳出法

それでは、and に注意して次の訳出を御覧ください。

「これらの問題は、我々が生きる現代において最も差し迫った問題であり、これから本書の中で論じる中心的な課題でもある。」となります。